

## 実践報告

### 武蔵丘ハンドボールクリニック活動報告

#### The activity report of Musashigaoka Handball Clinic

高橋 琴美 高橋 こずえ

Kotomi Takahashi Kozue Takahashi

#### Abstract

武蔵丘スポーツクラブのスポーツイベント事業である「武蔵丘ハンドボールクリニック」における平成 26, 27 年度の活動について報告する。これまでの課題である広報及び参加者募集の方法については、近隣のチームだけではなく県内のチームに案内をして参加者を募った。それによって遠方からの参加者が増えたが、ハンドボール未経験の子どもたちの参加はまだ少ないため、未経験者の参加が増えるような募集方法について今後も検討が必要である。また開催時期を 6～10 月とし、その期間で 3 回のクリニック開催を予定していたが、日程調整が難しく、平成 27 年度からはこのクリニックの特徴である親子クリニックと中学生クリニックの 2 回の開催へと変更した。どちらのクリニックも参加者から大変好評を得ており、補助員としてサポートする学生にとっても貴重な機会となるため、今後も改善をしながら継続していきたいと考えている。

キーワード：武蔵丘ハンドボールクリニック、コミュニケーション能力、指導法、武蔵丘スポーツクラブ

## I はじめに

武蔵丘スポーツクラブでは、武蔵丘短期大学の施設を利用し、スポーツイベント事業の一つとして平成 24 年から「武蔵丘ハンドボールクリニック」（以下、クリニック）を開催している。このクリニックは、ハンドボール競技の普及と地域社会への貢献を目的とし、子どもたちにハンドボールに触れる機会を提供するとともに、埼玉県内に拠点を置く日本のトップチームである大崎電気ハンドボール部にご協力いただき、ハンドボールというスポーツを通じて思いやりの精神や努力する習慣を身につけ、コミュニケーション能力の向上を図るプログラムを実施している。また本学学生においては補助員及び運営スタッフとしてクリニックに参加し、子供たちと一緒に活動することでコミュニケーション能力を養うとともに、ハンドボールの指導法について学ぶことを目的としている。前回の報告で、開催初年度からの課題として 1) 広報及び参加者募集の方法の検討、2) 開催時期、及び開催回数の検討が挙げられた。本報告では、その課題についての取り組みとその後のプログラム実施内容について報告する。

## II 平成 26 年度

### 1. 事前準備

事前に講師、及び担当で打ち合わせを行った。平成 26 年度から講師は大崎電気ハンドボール部の選手と山口たまき氏にお願いすることとなったため、選手の試合がない時期である 6 月、8 月、10 月の年 3 回開催することとした。対象者及び内容は大きく変更せず、平成 25 年度と同様とした。

クリニック当日の救急体制では、平成 25 年度まで協力していただいた田中忍氏が他大学へ異動されたため、開催日をオープンキャンパス開催日と重ね、クリニックスタッフと学生、及び本学事務職員で対応できるようにした。

### 2. 開催時期、参加者数と講師

開催回数は年 3 回とし、参加者を小学生(高学年)、中学生、親子(小学生とその保護者)にすることとした。開催時期と参加対象者および人数は表 1 の通りである。第 2 回については、参加者が小学生のみ、あるいは保護者 1 名小学生 2 名以上の参加の場合は、学生が保護者役で参加した。また台風の影響で中学生の大会がクリニック開催日に延期されたため、第 3 回のクリニックは中止とした。

表 1 平成 26 年度開催日時及び参加者

	日 時	参加者	人 数
第 1 回	6 月 8 日 (日) 9～12 時	坂戸ハンドボールクラブ さいたま市ハンドボールクラブ	4～6 年生 13 名
第 2 回	8 月 10 日 (日) 10～13 時	小学生とその保護者	13 組 26 名
第 3 回	10 月 18 日 (土) 12～15 時	春日部市立豊春中学校	

なお、各回の講師は次の通りである。

第 1 回：山口たまき氏、東佑三選手、岩永生選手

第 2 回：山口たまき氏、東佑三選手、時村浩幹選手

### 3. 内容

講師が東俊介氏から大崎電気ハンドボール部の東佑三選手に交代したが、基本的には 25 年度同様に仲間とコミュニケーションをとり、協力し合うことを重視した内容で展開し、クリニックの最後にゲームを行った。

小学生対象のクリニック（以下、小学生クリニック）では、小学生の大会日程が近く、参加者がこれまでより少なかった。クリニックが 6 月の開催となったため、大会とは重ならないように日程調整をしたつもりであったが、今後はより慎重に日程調整をする必要があると思われる。また親子対象のクリニック（以下、親子クリニック）は夏休みの親子イベントとなり、悪天候のなかでの開催だったが、非常に好評だった。

開催が中止となってしまった中学生のクリニックは、やむを得ない事情ではあるが非常に残念であった。



写真 1 小学生クリニック



写真 2 親子クリニック

## Ⅲ 平成 27 年度

### 1. 事前準備

これまでのクリニックと同様に、講師は大崎電気ハンドボール部の選手と山口たまき氏にお願いしたが、山口氏は日程調整が難しかったため、平成 27 年度は大崎電気ハンドボール部の選手のみとなった。開催時期は、選手の試合がない時期である 6 月～10 月とした。対象者及び開催回数については、小学生クリニックと親子クリニックで参加者が重複していることが多いこと、また施設や講師、参加者の日程調整が難しく、その中で年 3 回の開催が難しいことから、平成 27 年度からは小学生クリニックを取りやめ、親子クリニックと中学生を対象のクリニック（以下、中学生クリニック）の 2 回開催にすることとした。

課題となっている広報及び参加者募集の方法として、親子クリニックについては、近隣の小学生チームに案内をするだけでなく、そのチームから県内の他チームの代表者にクリニック開催の案内を回してもらい、これまでよりも多くの人に案内を回した。中学生クリニックについては、これまで同様に近隣の中学校及び春日部市の豊春中学校に声をかけ、日程を調整した。

クリニック当日の救急体制では、開催日をオープンキャンパス開催日と重ね、クリニックスタッフと学生、及び本学事務職員で対応できるようにした。

これまでクリニックの補助員として参加している学生はハンドボール部員が中心であったが、平成 27 年度は健康スポーツ演習（ハンドボールゼミ）を履



修している学生も参加し、クリニックの事前準備及び運営サポートに携わる場を設けた。

## 2. 開催時期、参加者数と講師

開催回数は年2回とし、第1回を親子クリニック、第2回を中学生クリニックとした。開催時期と参加対象者および人数は表2に示した。

表2 平成27年度開催日時及び参加者

	日 時	参加者	人 数
第1回	8月2日(日) 9時30分 ～12時30分	小学生とその保護者	15組 32名
第2回	10月17日(土) 9時30分 ～12時30分	春日部市立豊春中学校 東京農業大学第三高等 学校付属中学校	31名

なお、各回の講師は次の通りである。

第1回：東佑三選手、岩永生選手、時村浩幹選手

第2回：東佑三選手、岩永生選手、小澤広太選手

## 3. 内容

親子クリニックでは、昨年度同様に仲間とコミュニケーションをとり、協力し合うことを重視した内容で展開した。中学生クリニックでは、全体でウォーミングアップを30分程度行った後、コートプレーヤーとゴールキーパーに別れ、ポジション別の練習を行った。ポジション別の練習では、講師の指導の下、それぞれの専門的な練習を行った。ポジション別の練習の後は再び一緒に練習を行い、コート全体を使った練習を行った。すべての回において最後はゲームを行い、仲間との協力と応援の大切さを意識させた。



写真3 親子クリニック



写真4 中学生クリニック（GK練習）



写真5 中学生クリニック（CP練習）

## Ⅳ 今後の課題

このハンドボールクリニックの特徴としては、仲間との協力、コミュニケーション能力を養うということを重視していることにある。そのためクリニックの内容については、毎年テーマを変えてレベルアップを図るのではなく、内容は大きく変更をせず継続し、必要に応じて参加者からの要望なども取り入れる方向で進めている。中学生クリニックについては、経験者のみの参加となるため、基本的な内容だけではなく、ポジション別の練習を取り入れることで個々のレベルアップが図れる内容を組み込んでいく。参加者からは、現役選手に直接指導してもらえること、特に中学生ではゴールキーパーのための練習機会を設けたことで大変好評である。よって今後もこの内容で継続をしていきたいと考えている。

これまでのクリニック開催についての課題として

は 1) 広報及び参加者募集の方法の検討、2) 開催時期、及び開催回数の検討の 2 つが挙げられた。

1) 広報及び参加者募集の方法については、親子クリニックでは、これまで近隣のハンドボールクラブに声をかけるだけであったが、近隣チームの代表者の協力を得て、小学生チームの大会等で県内の他チームの代表者にクリニック開催の案内をお願いした。それによりハンドボール経験のある、やや遠方からの参加者が増えたが、ハンドボール未経験者の参加は未だに少ない。よって、より多くの子どもたちにハンドボールを経験し、楽しんでもらうためにも、今後は各チームに案内をするだけでなく、近隣の小学校などで積極的に案内を行い、ハンドボール未経験の子供たちの参加を増やしていくことも検討していく必要がある。そして、クリニックに参加した後に継続してハンドボールができる環境を作っていくことが、今後の発展のための重要な課題となると考えられる。中学生クリニックについては、受け入れ人数に限られるため、これまで参加していたている 3 校で今後も進めていきたいと考えているが、学校によっては部員数が減少し、活動ができなくなっている学校もあるため、状況に応じて対応していきたいと考えている。

2) 開催時期、及び開催回数については、できるだけ暖かい時期である 6～10 月に開催できるよう調整したが、期間が短く、各大会の予定、中学生では試験の日程等も考慮すると日程調整が非常に難しくなった。さらに平成 26 年度は台風によってやむなくクリニックを取りやめることにもなった。このことから余裕を持って日程調整ができるよう、平成 27 年度は年 2 回（親子、中学生）の開催に変更した。年 2 回の開催では、日程調整にも余裕ができ、準備等も落ち着いて進められたことから、今後も年 2 回の開催とするが、それぞれのクリニックの開催時期についてはよりよい時期を検討する必要があると考えられる。

平成 27 年度では、本学ハンドボール部員だけではなく、健康スポーツ演習（ハンドボールゼミ）を履修している学生にもクリニックの運営・サポートに携わる場を設けた。ハンドボールを専門種目として取り組んできていない学生も何人かいたが、事前に役割分担を決め、運営・進行について相談したこ

とで、それぞれができる範囲でクリニックのサポートを行うことができ、貴重な経験となった。さらに、クリニック終了後にその時の活動の様子について全員でまとめ、学園祭でのゼミ発表として報告することができた。またハンドボール部の学生にとっては現役選手と一緒に子どもたちの指導を行うことでコミュニケーション能力を養うとともに、指導法についても学ぶ機会となった。このようなクリニックが続けられるのも、大崎電気ハンドボール部の協力によるものであるが、参加者だけではなくサポートとして手伝っている学生にとっても貴重な機会となっていることから、今後も改善を続けながら、武蔵丘ハンドボールクリニックを継続させていきたいと考えている。

## V 謝辞

この武蔵丘ハンドボールクリニック開催にあたり、山口たまき氏、大崎電気ハンドボール部、及びご協力いただいた皆様に感謝いたします。